

平成 30 年度事業計画

自 平成 30 年 4 月 1 日
至 平成 31 年 3 月 31 日

一般社団法人日本透析医学会

目 次

1. 総務委員会	(1)
2. 財務委員会	(4)
3. 編集委員会	(4)
4. 学術委員会	(5)
5. 統計調査委員会	(6)
6. 専門医制度委員会	(7)
7. 国際学術交流委員会	(9)
8. 評議員選出委員会	(10)
9. 保険委員会	(10)
10. 倫理委員会	(11)
11. 腎不全総合対策委員会	(11)
12. 危機管理委員会	(12)
13. 研究者の利益相反等検討委員会	(13)
14. 男女共同参画推進委員会	(13)

1. 総務委員会

1) 年次学術集会

第63回日本透析医学会学術集会・総会は、兵庫医科大学 内科学 腎・透析科 教授 中西 健会長が主宰し、平成30年6月29日（金）、30日（土）、7月1日（日）の3日間、神戸国際会議場、神戸国際展示場、ワールド記念ホール、神戸ポートピアホテル、アリストンホテル神戸を会場として開催する。

今回のテーマは「腎甦絶技」を掲げて開催する。

<会長講演>

「余病同源」

<特別講演>

「透析医療の未来（政策の面から）」、「バイオ人工臓器・細胞の開発」、「医療とケアにおけるユーモア」、「2018年診療報酬改定が目指すもの」、「声と話し方&聞く力を磨いて、コミュニケーションスキルアップ!」、「笑顔に導く!笑顔で繋がる!笑顔が広がる!『笑いの五原則』」、「平成28年改定における「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」の創設と平成30年改定における腎代替療法に関する事項について」、「Oxygen Sensing in the Kidney: Basic Biology and Therapeutic Opportunities」、「Dialysis Technology For The Future: Great Expectations and Healthcare System Value」

<教育講演 アドバンス>

「う蝕と歯周病は糖尿病とIgA腎症の悪化要因～口腔ケアではなく口腔管理が重要～」、「透析療法における医療安全」、「これからの腎性貧血治療」、「透析医学における臨床研究倫理」、「Iron metabolism in CKD patients（同時通訳あり）」、「我が国の健康医療戦略と腎・透析医療におけるAMEDの役割」、「Magnetic Resonance Imagingを用いた腎機能の評価」、「CKD-MBDと腎骨症候群」

<教育講演 ベーシック>

「透析患者の泌尿器科疾患（悪性腫瘍含む）」、「あなたの論文は何故rejectされるのか?」、「透析患者の下肢救済の現状とこれから」、「透析現場に求められる災害対策」、「透析患者の栄養管理とそのこつ」、「糖尿病性腎症最近の進歩」、「透析医療における眼疾患の見方」、「透析患者の脳血管系合併症」、「泌尿器・内科医からみた腎移植」、「コメディカルのための臨床研究入門2」、「透析患者の血圧管理 up to date」、「透析患者リハビリの実際」、「今求められる透析液組成とは」、「世界における日本透析医学会の役割」、「ここまでわかったI-HDF」、「透析患者の心不全その病態と治療」、「最新の腹膜透析管理」、「透析患者の認知症管理」、「今更聞けない透析膜の生体適合性」、「透析患者の骨折とその対応」、「透析患者のフレイルと慢性疲労症候群」

<記念シンポジウム>

「日本透析医学会50周年記念シンポジウム—わが国の透析の進歩、そして未来へ向けて—」

<シンポジウム>

「HDFの適応について」、「高齢者の透析導入を考える」、「改訂KDIGO guidelineと日本のCKD-MBD治療 KDIGO CKD-MBD Guideline Update and Clinical Practice in Japan」、「腎代替療法における腎移植の立場」、「腎性貧血治療の現状と未来」、「改訂腹膜透析ガイドラインの目指すもの」、「透析医療における診療報酬のゆくえん」、「腎臓再生への挑戦」、「PDOPPS」、「看護連携 基礎看護教育から臨床へ」、「【腎臓学会との合同企画】保存期から透析に至るCKDのトータルケア」、「透析患者のQOLとフットケア」

<ワークショップ>

「糖尿病合併透析患者治療の up to date」、「腹膜透析研究の進歩と将来」、「Drug in CKD（最近の話題）」、「透析患者の感染対策の最新の話」、「AKIにおける血液浄化療法」、「超高齢透析患者のQOL向上を目指して」、「透析患者の低栄養に対する栄養介入」、「透析患者における鉄代謝と合併症」、「【日本腎臓リハビリテーション学会との合同企画】サルコペニア・フレイルへの腎臓リハビリの役割」、「血液浄化療法に残さ

れた課題とその対策, 「透析患者の癌対策」, 「CKD-MBD 治療における calcimimetics を再考する」, 「透析医療のイメージ戦略」, 「臨床工学技士が関わる透析療法の現状と課題」, 「高齢透析患者の合併症と対策」, 「透析医療の組織的災害支援体制」, 「透析看護における最新の話題を療法生活から考える」, 「Vascular Access の開存向上を目指して」, 「アフレスシ施行時のバスキュラーアクセスを考える」, 「透析患者の心イベント発症病態を考察する」, 「リン-FGF23-Klotho axis: 臨床から基礎へ」, 「透析患者の骨折」, 「合同企画: 透析患者・家族の QOL と多職種連携」, 「VA エコーだけではもったいない! 透析施設でのエコー活用術」, 「小児血液浄化療法の現状と将来展望」, 「チーム医療でのぞむ在宅血液透析」

<学会・委員会企画>

編集委員会企画: JSDT 公式雑誌の動向と今後の展望, 保険委員会企画: 透析医療経済の今後～診療報酬改定後の展望～, 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画: これからの透析装置のあり方を考える, 学術委員会血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画: 透析液水質管理の実際と濃度測定の標準化, 学術委員会企画: 2017 Year in Review, 男女共同参画推進委員会企画: 第1-2回 TSUBASA PROJECT, 学術委員会 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会企画: 長時間・頻回透析の展望, 専門医制度委員会企画: 専門医制度の現状と課題, 統計調査委員会企画: 透析導入期早期死亡の疫学, 血液浄化に関する新技術検討小委員会企画: 新技術で機能は甦るか!?, 腎不全総合対策委員会企画: 地域における末期腎不全医療を考える, 危機管理委員会企画: 透析施設の現場における災害対策の課題

<国際学术交流委員会企画>

「Free Communication 1」, 「Free Communication 2」, Symposium 1: 「Current status and countermeasures of Virus infection in dialysis patients」, Invited Lecture: 「Nutritional management in dialysis patients」, Symposium 2: 「The Dialysis History and Status of 2018 in Non-Western Countries」

<企業共催シンポジウム>

「透析患者の心血管疾患～CKD-MBD との関連を紐解く～」, 「透析アミロイド症」, 「静注 Calcimimetics による二次性副甲状腺機能亢進症治療」, 「腎代替療法の適切な普及に向けて」, 「療法選択を考える～Shared Decision Making～」, 「CKD-MBD: 現状と展望～Deep Dive Discussion～」, 「透析導入患者の Total Management」, 「次世代透析医療を見据えた CKD 治療戦略」, 「DOPPS Symposium」, 「透析患者の合併症治療を考える」

<市民公開講座>

日時: 平成 30 年 7 月 22 日 (日)

会場: 兵庫医科大学 平成記念会館

<その他>

6 月 29 日 (金) 医療安全講習会

6 月 30 日 (土) 医療倫理講習会

7 月 1 日 (日) 日本透析医学会認定透析液水質確保に関する研修

※詳しくは総会ホームページをご確認ください。

2) 通常総会・臨時総会

(1) 第 63 回通常総会開催: 平成 30 年 6 月 28 日 (木) 16:00～17:30

(2) 臨時総会開催: 平成 30 年 6 月 28 日 (木) 17:30～18:00

(3) 学会賞・奨励賞授与式および講演会開催: 平成 30 年 6 月 30 日 (土)

3) 役員会

(1) 常任理事会・理事会開催: 平成 30 年 6 月 1 日・6 月 28 日・6 月 28 日 (臨時)・8 月・12 月・平成 31 年 3 月

(2) 監事による監査会開催: 平成 30 年 5 月 15 日 (火)

4) 透析施設会員名簿の発行

施設会員名簿は例年どおり発行されるが、個人情報保護の観点から、電話番号や責任者氏名などの公表を希望しない施設については、引き続きその情報を掲載しない方針である。

また、会員専用ホームページに検索マップを開設し、施設・賛助会員の検索ができるようにしたが、さらなる充実を図るとともに個人情報保護の観点から、施設の公表を希望しない場合には情報を掲載しない方針である。

5) 小委員会

(1) 情報管理小委員会

学会ホームページの円滑な運営、内容の充実を図る。

- ① 学会活動ならびに関連情報の迅速な公開・更新を行う。
- ② コンテンツを見直し、逐次更新する。

(2) 腎不全看護師・栄養管理士育成ならびに腎臓病薬物療法認定薬剤師・専門薬剤師認定・育成に関わる小委員会

- ① 慢性腎臓病療養指導看護師（平成 29 年 9 月から施行）に関する助言と問題点への対策を行う。
- ② 腎臓病薬物療法専門・認定薬剤師認定制度に対する助言を行う。
- ③ 栄養管理士育成事業として、日本栄養士会が実施する管理栄養士専門分野別人材育成（CKD 分野）における助言を行う。

(3) 感染調査小委員会

本小委員会は院内感染などの集団発症が発生した時には、関係者の協力を得て機動的に対応するとともに、感染症にかかわる諸問題が発生した場合に迅速に対応する。また、今後発生の頻度が高いと思われる感染症の事例に機動的に対応する。日本の透析施設の「HIV 患者受け入れに関するアンケート調査」をまとめ委員会企画として論文化する。

(4) 統計調査のあり方小委員会

- ① あらたな諸法の整備に適應して、統計調査実施の倫理基盤の確認を行う。
- ② 統計調査結果の解析、論文化の計画の明確化、会員施設へのインセンティブを検討する。
- ③ 統計調査委員会と意見交換を行い、統計調査の IT 化の方向性を検討する。

(5) 発展途上国の透析スタッフ育成プログラム小委員会

発展途上国の若手医師・コメディカルの日本における研修サポートするために、過去 3 年間のパイロット的研修施行で出てきた問題点を精査し、本変化研修受け入れシステム・研修者選択システム・研修テキストを完成する。また、完成したシステムに従い研修生を受け入れ、学会として継続的支援が可能な体制を模索する。

(6) 本学会のあり方小委員会

一般人にも分かりやすい本学会の立ち位置・特徴などについて検討していく。特に現在重要な案件である透析専門医に関して日本専門医機構との意見交換を行いながら、検討を進める。

(7) e-ラーニング検討小委員会

- ① 第 63 回学術集会・総会の教育講演、教育講演ベーシックを収録し、8 月以降 12 月までの間で会員専用ホームページにアップし専門医は単位取得ができるように、専門医制度委員会と意見交換を図る。また、専門医以外の者もスキルアップのため視聴できるようにする。
- ② 運用については、ホームページで開始時期を周知する。アクセス対象者は、「正会員」、「専攻医を目指す正会員」、「施設会員の施設に所属する医療従事者」とする。
- ③ e-ラーニングのコンテンツとして、「医療安全」、「倫理」、「感染」、「災害」のテーマは必須事項であることを認識し、演題中に必ず含むようにする。

<平成 29 年度理事会承認事項>

e-ラーニング問題正答 1 単位

ただし、「教育講演（60 分講演）」を 1 回または「教育講演（30 分講演）」を 2 コマ連続で 1 回視聴し正答すること。

*① e-ラーニング視聴による年間認定単位数上限は 5 単位とする（ただし、年次学術集会に参加し教育講演等を聴講し 5 単位を取得した者を除く）。

② 認定期間 5 年間のうち卒後教育プログラム取得認定単位数上限は 25 単位とする。

(8) 創立 50 周年記念祝賀会準備委員会

創立 50 周年を迎えるにあたって、第 63 回学術集会・総会会期中にシンポジウムを開催するとともに、8 月をめどに、記念講演、記念祝賀会の開催を目指す。

6) 学会との連携、協力関係

1) 日本医学会, 2) 日本医学会連合, 3) 日本医師会, 4) 日本慢性腎臓病 (CKD) 対策協議会, 5) 透析療法合同委員会, 6) 内科系学会社会保険連合, 7) 臓器移植関連学会協議会, 8) 末期腎不全治療説明用小冊子作成, 9) 糖尿病性腎症合同委員会, 10) 登録腎生検予後調査検討委員会, 11) 先行的献腎移植申請検査会, 12) 透析療法に関するグランドデザイン, 13) 日本透析医会との連絡協議会, 14) 日本医療器材工業会と日本透析医学会の連絡協議会等と協力、連携を密にしていく。

2. 財務委員会

平成 20 年 12 月に新公益法人制度が施行され、これに伴い本学会も平成 24 年 9 月 3 日付けをもって、一般社団法人に移行した。一般社団法人への移行とともに本学会の財務管理を平成 20 年度改正の新・新公益法人会計基準に則り、新・新基準による経理を実施し、貸借対照表および正味財産増減計算書等を軸とした本学会活動の正確な各事業別損益の把握をして、より適切な財務管理を目指す。

以上を踏まえて、税務を含めた適正な会計処理を継続的に遂行し、学会として各常置委員会、小委員会の諸事業を積極的に推進し、多大な成果が得られるよう財務を通じて協力助成するとともに財務業務の全般的な見直しを継続して検討する。

3. 編集委員会

1) 公式和文誌「日本透析医学会雑誌」について

- (1) 日本透析医学会雑誌を毎月 1 冊、年間 12 冊を発行する。
- (2) Year in Review 2017 原稿の投稿を受け、2018 年和文誌に優先的に掲載を検討する。
- (3) 統計調査委員会の年末調査報告「わが国の慢性透析療法の現況」を例年通り和文誌に掲載する。
- (4) 学術集会・総会特別号（抄録集）を Supplement として発行する。
- (5) 年間 1~2 回を目安として特集号を組む。

2) 公式欧文誌 Therapeutic Apheresis and Dialysis (TAD) について

国際アフェレシス学会・日本アフェレシス学会と共同で引き続き年 6 回刊行する。

3) 公式欧文誌 Renal Replacement Therapy (RRT) について

- (1) 引き続き Web Journal として Open Journal の形式で、CC-BY の著作権で引き続き発行する。
- (2) Google Scholar 並びに DOAJ での Index 化（完了）に続き、本年度中に PubMed Central での Index 化申請し達成を目指す。
- (3) 他の検索システム (Embase, MEDLINE, Science Citation Index, Scopus, Web of Science etc.) などへの Index 化も順次手続きを行い進める。

- (4) 国内の関連領域他学会からの希望があれば、RRT 誌の Official Journal 化を検討する。
- (5) 2018 年度は各学会からの合計 8 編の Position Statement 論文掲載を予定する。
- (6) 2018 年度は投稿数 120 編を目標とする。
- (7) すでに採用済の海外からの Associate Editor 並びに Editorial Board Member をさらに増員する。なお新規には本邦以外在住者を原則とする。

4) 公式書籍 JSDT Book シリーズの発行調査と創刊計画立案

- (1) JSDT のガイドラインや学会レポート等を加筆し、JSDT Book シリーズとして創刊を目指す。
- (2) 初年度の 2018 年度は発行調査として、出版社との契約条件等を探索する。さらに創刊計画立案も行う。
- (3) 最初の JSDT Book No.1 は「腹膜透析治療ガイドライン」を想定する。

4. 学術委員会

1) 学会賞・奨励賞の選出

選考規定に則って学会賞・奨励賞の選考を行い、理事会の承認を得る。

2) 学術委員会活動（ガイドライン、提言等の作成、広報活動）等に関する協議

学術委員会の会合を定期的に開催し、学術委員会関連小委員会と共同して、実施すべき学術活動に関して協議・遂行する。

平成 28 年度に 2009 年度版「腹膜透析ガイドライン」の改訂ワーキンググループを設置して、改訂作業を開始したが、その活動を進める。

3) 新たな公募研究システムの立案

新たな公募研究システムを、学術委員会主体で行うこととし、統計調査委員会と協力して新しい公募研究システムを立ち上げたが、この活動を進める。

4) 栄養問題検討ワーキンググループ（菅野義彦委員長）

昨年度でわが国の透析患者における栄養評価について一定の方針を定めることができたため、今後介入に関する指針策定を目指して活動を行う。第 63 回学術集会・総会ワークショップでその情報共有を行う。

5) 腹膜透析ガイドライン改訂ワーキンググループ（伊藤恭彦グループ長）

「日本透析医学会診療ガイドライン作成指針」に則り改訂を進める。

Content 1 に対してワーキングメンバー中心に記述作業、査読者によって review を行い作成する。

Content 2 では、Systematic Review (SR) メンバーの組織にて、Clinical Question (CQ) に対して SR 作業を進める。パネル会議を開催し CQ に対する推奨度を決定する。パブリックコメントを求めガイドライン改訂版を作成する。

6) 小委員会活動

(1) 学術専門部小委員会（土田健司委員長）

① 新たな学術システムの構築の一つである Dialysis therapy, 2017 year in review を第 63 回学術集会・総会（平成 30 年 6 月）において委員会企画として発表する。

② 2018 年中に Dialysis therapy, 2017 year in review を学会誌に投稿し掲載依頼する。

(2) 血液浄化療法の機能・効率に関する小委員会・ISO 対策 WG 合同委員会（峰島三千男委員長）

① 透析液濃度測定標準化について、日本血液浄化技術学会、日本臨床工学技士会と共同で検討し、その普及に努める。

② 透析装置の標準化ならびに透析器・血液回路一体型の有用性について、日本臨床工学技士会、日本医療機器テクノロジー協会 (MTJAPAN) と共同で検討し、推進する。

③ ISO 会議に委員を派遣し、最新の ISO の動向を把握する。

④ 「頻回・長時間血液透析における機能・効率と安全性の検討ワーキンググループ」を通じ、それぞれの

治療の安全性、有効性、処方条件などについて議論し、提言の形でまとめていく。本 WG には日本透析医会、長時間透析研究会からも委員を派遣してもらい、共同の事業として進めている。

(3) 血液浄化に関する新技術検討小委員会（山下明泰委員長）

- ① 第 62 回学術集会・総会に引き続き、第 63 回学術集会・総会（平成 30 年 6 月）においても委員会で議論した成果を、委員会企画で発表する。
- ② 小委員会内の役割分担を再確認するとともに、前年度に引き続き、ものづくりに向けて検討が必要な事象（特許、PMDA の判断など）の洗い出しを行う。
- ③ これまで同様、委員会は年に 3 回開催する。各委員の研究進捗報告のみならず、研究費体制等の問題点解決に向けて互いの協力体制の強化を図る。

(4) 医師・コメディカルスタッフの教育・研究体制の在り方小委員会（峰島三千男委員長）

- ① 体験参加型セッションの開催
- ② 学会ガイドライン・指針・委員会報告の内容を基にしたわかりやすいセミナーの開催
これらの企画は学術総会時に開催するのが効果的と考え、総会大会長へ働きかける。採択の場合、委員会として全面的に協力していく所存である。

(5) コメディカルスタッフ研究助成基金運営委員会（友 雅司委員長）

例年通りの方法で適切な応募研究課題の中から選考する。

(6) 透析医学用語集作成小委員会（土谷 健委員長）

先の透析医学用語集が平成 19 年度のものであり、新しい用語・古くなった用語等もあるので、基本的に用語集を改訂する方針とし、平成 29 年度に実際の作業を開始したが、継続して実施する。

また、関連学会として、「日本腎臓学会」「日本アフェリシス学会」および「日本急性血液浄化学会」からの委員に参加を仰ぎ、「日本腹膜透析医学会」に可能なら委員の派遣を依頼する。日本腎臓学会は重なる用語も多く、用語集の改訂予定などを問い合わせる。

関連学会との調整、刊行媒体の形態、扱いなどの実際の改訂作業を開始する。

5. 統計調査委員会

1) 2017 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況の調査・報告

- (1) 2017 年調査結果を、現況報告図説・CD ロム、学会誌に報告するが、より効率的で低コストの報告方法を検討する。
- (2) 原著報告書は Renal Replacement Therapy として、それをもとに和文報告書、図説報告書等を作成する。
- (3) 和文、英文のそれぞれのホームページに PDF 報告書、図のパワーポイント、表のエクセルを掲載する。
- (4) WADDA システムの公開に伴い、CD ロム出力帳票内容や将来の公表方法を検討する。

2) 2018 年 12 月 31 日現在のわが国の慢性透析療法の現況調査

- (1) 2018 年度の新規調査項目を設定する。
- (2) 今年度の調査計画を UMIN に公開する。
- (3) 学術委員会と腹膜透析医学会と協力して、腹膜透析の調査項目と今後の解析方法を再考する。

3) データベース構造、累積生存率に関わる問題の解決

- (1) 2000-2016 の JRDR を連結した累積生存率の算出に向けて検討する。
- (2) JRDR データベース構築や整備方法、累積生存率の算出方法、問題点などについて会員向けの解説論文を作成する。

4) WADDA システムの出力帳票の精度管理

- (1) さまざまな出力条件での帳票出力の再現性、精度管理を行う。

- (2) 上記目的を達成するための適切な方策を検討する。
- 5) 統計調査解析小委員メンバの公募システムの設立
 - 解析小委員のメンバの選定に際し、すべての学会員から公正に選定するために、解析小委員メンバの公募システムを設立する。
- 6) 過去蓄積データの匿名化の推進
 - (1) 2015 年末調査から行われた匿名化データの突合結果を評価し、問題点を集約する。
 - (2) 2018 年 3 月 31 日までに手持ちデータの匿名化を完了する予定であったが、新たな個人情報保護法案に対応した匿名加工の医療者向けガイドラインに準拠した処理方法を検討する。
- 7) 学術研究用データファイル切り出しシステムの構築（継続事業）
 - プログラム本体は完成し一部委員の手で稼働しているが、今後の効率的な稼働方法について検討する。
- 8) 第 63 回学術集会・総会において以下のセッションを開催する。
 - (1) 統計調査委員会・大会合同企画「コメディカルのための臨床研究入門 2」「教育講演 あなたの論文は何故 reject されるのか？」
 - (2) 国際交流委員会・統計調査委員会合同企画「Epidemiological aspect of early mortality of incident dialysis patients」
- 9) 統計調査データにおける研究活動の推進・論文化
 - わが国の透析医療のノウハウを世界に発信するために、学術委員会など各種委員会と協力して、現在までに蓄積されたデータを解析し積極的に論文化を行う。
- 10) 新たな公募研究システムの設立（継続事業）
 - 学術委員会と統計調査委員会が共同で行う新たな公募研究システムへの立ち上げを行う。
- 11) 国内・国際協力の推進
 - (1) 日本透析医会を始めとした他学術団体、さらには United State Renal Data System, Australia New Zealand Data System, European Real Association/European Dialysis Transplantation Association 等の海外レジストリと連携し、データ供与や解析を行う。
 - (2) 米国腎臓学会の際に、統計調査委員会とUSRDS メンバとのボードミーティングを行う。
- 12) 英語版ホームページの充実
 - (1) 透析医学会の統計調査の海外への発進力を高めるために、統計調査のホームページを充実させる。
 - (2) 英語版ホームページには英語版現況報告のPDF、英語版図説PPT、統計調査の歴史やシステム、これまでに発表された論文一覧などを提示する。
- 13) 会員インセンティブの充実
 - (1) 統計調査への理解を深め、会員のニーズを知るため地域協力員メーリングリストで引き続き積極的な情報提供に努める。
 - (2) 帳票出力システムの利用を推進する。

解析小委員会

- (1) 各小委員は既存データベースを用いて、慢性透析医療の将来に必要とされるさまざまなテーマについて解析を行い学会報告、論文化を行う。
- (2) 新たな研究テーマの提案に対して採否の意見をまとめ、委員会に審議を依頼する。
- (3) 既存研究テーマの進捗状況を小委員会で定期的に報告し、相互にブラッシュアップする。
- (4) 解析技術向上のため、外部委員による小委員を対象としたセミナーを開催する。

6. 専門医制度委員会

日本透析医学会専門医制度委員会は、血液浄化療法に関連する医学と医療の進歩に即応した優秀な医師の養成

をはかるとともに、透析医学の向上発展をうながし、国民の福祉に貢献することを目的として活動し、よりよい専門医制度の実施を目指すための事業計画を策定した。透析専門医として日本専門医機構から認定を受けることが最重要であり、専門医制度整備指針および専門医に関する情報システム開発事業報告書に準じて、さらなる専門医制度の改定を検討し、ヒアリングに備える。

1) 専門医制度委員会

専門医試験の不正行為を防止するための変更点について、受験者に広報する。

各小委員会で整備した内容について検討する。

(1) 研修プログラム小委員会

専門研修カリキュラムを合冊した専門研修プログラム第2版の作製作業にとりかかる。

カリキュラム制についての専門研修プログラムを作成する。

施設群の整備が必要と判断した場合、日本専門医機構専門医制度整備指針に準じて、専攻医を主として育成する専門研修基幹施設と、専門研修基幹施設で研修できない部分を補う専門研修連携施設による施設群を整備するために、現行の認定施設に専門研修基幹施設に移行する確認を行い、移行を希望する施設に、指導医の条件などを修正した実態調査を再度行う。各都道府県において、基幹施設としての認定の可否を検討し、専門研修基幹施設への移行を希望する施設群一覧表を修正する。また、専門医試験合格者の研修状況を検討し、専門研修施設群における専門医育成数の実態調査を行い、作成した施設群一覧表にない専門研修基幹施設の追加を行い、認定の可否を検討する。

(2) カリキュラム小委員会

専門研修指導マニュアル第3版の整備および作製作業にとりかかる。

整備した専門研修トレーニング問題解説集第3版の作製作業にとりかかる。

セルフトレーニング問題の作成を行う。

e-ラーニング問題のブラッシュアップを行う。

(3) 専門医認定小委員会

専門医と指導医の新規認定と更新を行う。

適正な専門医数と年間育成専攻医数の検討を継続する。

専門医試験の不正発覚時の受験者・教育責任者・施設認定に対する罰則規定について検討する。

(4) 専門医試験小委員会

専門医試験を実施する。

専門医試験プール問題の中で、優良でない試験問題（優良の定義：正答率50～70%かつ識別指数0.2～0.4以上）の一部をブラッシュアップする。また、新規に問題を作成し、すべての分野における適正数の問題をプールするとともに、写真や図表問題も多くし、500題のプールを目指す。

(5) 施設認定小委員会

認定施設と教育関連施設の新規認定と更新を行う。

専門医試験の受験者不正発覚時の認定施設と教育関連施設に対する罰則規定がないため、検討する。

現行および施行時期理事会一任の専門医制度規則・規則施行細則については、必要に応じて見直しを審議する。

2) 「倫理の問題」については毎年啓発しており、専門医認定の口頭試験で受験者の倫理観を確認する予定である。

3) 透析専門医としての「質」を継続維持していくために、本学会専門医の更新を目指す医師を対象に「セルフトレーニング問題」を導入しており、カリキュラム小委員会編集会議でブラッシュアップを行い、その問題を学会誌に掲載し、専門医・指導医認定小委員会の厳密な審査で所定の正答率をクリアした専門医には一定の研修単位（5単位）を認定している。なお、専門医更新必須条件であるセルフトレーニング問題正答を認定期間5年の内1回以上正答として実施している。なお、問題は学会誌には掲載せず、応募者に

問題・解答用紙（マークシート）を送付し，受付期間は5月1日～5月31日まで実施し問題・正解・解説は9号に掲載する予定である。

- 4) 血液浄化法に関する生涯教育の一環として，全国を細則第2条の11地区に分け，年1回各地区の各地方学術集會にて生涯教育プログラムとして実施している講演會に対して，専門医認定小委員会地区委員および施設認定小委員会地区委員が1つの地方学術集會を推薦し，専門医等認定事業経費から助成金を支給している。
- 5) 専門医認定審査は，今までと同様に書類審査，客観式筆記試験（問題形式はAタイプ，X2タイプ），口頭試問試験の3者の総合的な判断で行い，合否を決定する予定である。
- 6) 専門医認定（専門医認定試験）と更新，指導医認定と更新，認定施設・教育関連施設認定と更新，の公示・受付等については下記の通りである。

(1) 2018年度 第29回 専門医認定試験

申請受付会告	2018年3号～5号
申請書類受付	2018年6月1日～6月30日
筆記試験および口頭試問試験日	2018年10月21日（第3日曜日）
試験会場	都市センターホテル（東京都）

(2) 認定期限2019年3月31日までの専門医認定更新

更新申請受付会告	2018年8号～10号
更新申請書類受付	2018年11月1日～11月30日

(3) 2018年度 第29回 指導医認定

申請受付会告	2018年10号～12号
申請書類受付	2019年1月6日～1月31日

(4) 認定期限2019年3月31日までの指導医認定更新

更新申請受付会告	2018年9号～11号
更新申請書類受付	2018年12月1日～12月28日

(5) 2018年度 第28回 認定施設・教育関連施設認定

申請受付会告	2018年4号～6号
申請書類受付	2018年7月15日～8月15日

(6) 認定期限2019年3月31日までの認定施設・教育関連施設の認定更新

更新申請受付会告	2018年4号～6号
更新申請書類受付	2018年7月15日～8月15日

7. 国際学術交流委員会

第63回学術集會・総會において，国際学術交流委員会として下記の企画を行う。

I. 招請講演

Prof. T. Alp Ikizler (USA) “Nutritional management in dialysis patients”

II. シンポジウム

(1) シンポジウム1 Current status and countermeasures of Virus infection in dialysis patients

- ① Vivekanand Jha (India)
- ② Elena Zakharova (Russia)
- ③ Ahmed Sokwala (Kenya)
- ④ Minoru Ando (Japan)
- ⑤ Takuma Shirasaka (Japan)

(2) シンポジウム 2 The Dialysis History and Status of 2018 in Non-Western Countries

- ① Kenichi Kokubo (Japan)
- ② Hussein M. A. Bagha (Kenya)
- ③ Thim Pichthida (Cambodia)
- ④ Elena Zakharova (Russia)
- ⑤ Abdul W.M. Wazil (Sri Lanka)

III. シンポジウム (統計調査委員会との共同企画)

- ① Csaba P Kovesdy (USA)
- ② Takehiko Kawaguchi (JSDT)
- ③ Saran Rajiv (USRDS)
- ④ Stephen McDonald (ANZDATA)

IV. 一般講演 Free Communications

例年通り，公募を行った。

V. Farewell Reception

海外からの参加者，演者，国際交流委員，日本透析医学会評議員などの学術交流の場として，大会期間中に Farewell party を開催する。Welcome Party については例年通り，サポートを行う。

VI. Travel Grant 等

招請講演演者に対しては，欧米演者は講演料 2000 ドル，交通費 5000 ドル，アジア演者は 1000 ドル，交通費 35000 ドルを支給，シンポジストには欧米演者には講演料 1000 ドル，交通費 3000 ドル，アジア演者には講演料 10 万円，交通費 15 万円支給することとした。一般演題に関しては，World Bank Criteria による Lower-middle income countries, Low-income countries に対して，サポートを厚くすることとした。Lower-middle income countries, Low-income countries については年齢制限はなしとし，travel grant 10 万円 (ただし VISA が必要な国からの場合は旅行保険込み)，Upper-middle-income countries, High-income countries については 40 歳未満を対象として 5 万円支給することとした。

VII. 学術集会会期中の委員会企画の論文化

学術集会会期中に開催される，シンポジウム 1. Non-Western World Symposium2018 を論文化する。なお，第 62 回学術集会会期中に開催された，シンポジウム Asian Symposium2017 は，当初論文化を予定していなかったが，原稿の提出が確認できたため，2018 年度に論文化する。

1) 国際交流派遣事業

海外関連学会への交流委員派遣は今年度も見送る予定である。

2) その他

国内外で開催される，関連国際学会へ各委員が独自に参加する。

8. 評議員選出委員会

評議員の任期は 2 年であるため，平成 30 年度は選出を行わない。

9. 保険委員会

平成 32 年度の保険改定に向けて内科系社会保険連合会の血液浄化委員会，日本腎臓学会，日本小児腎臓病学会，日本アフェレシス学会，日本急性血液浄化学会，日本腹膜透析医学会，日本透析医会と連携して提案項目の検討を行い，内保連を通じて厚生労働省に提案する。

透析液水質確保に関する研修を第 63 回学術集会・総会および専門医制度委員会が認定している地方学術集会な

らびに全国規模学術集会において実施する。

平成 32 年度の保険改定、要望について

本学会より、

- (1) 「Vascular access の日常管理加算」について要望する。

VA 関連の評価を行うことにより VAトラブルを未然に防ぐことを目的とする。

診療報酬に掲載するには以下の検討が必要である。

算定要件、施設基準の検討。

また、費用対効果の検討：感染率の低下、QOL の改善、VA 管理に係わるタイムスタディの施行などを検討する。

- (2) 「月間の透析回数枠」
- (3) 「療法選択の基準の検討」

10. 倫理委員会

- 1) 透析医学会として対応すべき倫理に関する課題に対して、適時委員会を開催し審議する。
- 2) 透析医学会として対応すべき、研究倫理に関する課題に対して、随時研究倫理に関する検討小委員会を開催し検討する。
- 3) 個人情報安全管理ならびにその適切な取扱をするため、個人情報管理者である倫理委員長が個人情報の利用等の管理に適時対処する。

11. 腎不全総合対策委員会

当委員会の今年度の活動としては、昨年度より開始した地域における腎不全医療アクセスに関するアンケートの範囲を拡大するとともに、解析を進め、データをもとに、学術総会において、この問題に関するシンポジウムを企画している。また、従来からの、CKD 総合対策の一環と他学会と協力して、腎移植、腹膜透析の普及活動を継続して進める。

- 1) 地域における腎不全医療アクセスの問題点の解析

- (1) CKD 患者数に比べ、透析導入の数が少ないなど、非専門医から腎臓専門医や透析医へのアクセスに問題がある可能性のある地域に注目し、その連携の問題点と解決策を明らかにするために、腎臓内科、透析のない施設に対して「地域における腎疾患治療の現状に関するアンケート」を昨年度行うこととした。具体的なアンケート内容を検討し、まず岩手県において、大学、医師会等の協力をあおいで、アンケート調査を開始している。本年度は、同様に腎不全医療アクセスに問題のある他の地域として、島根県、秋田県での調査を開始するとともに、逆に行政の介入が進んでいるとされる熊本県、山梨県での調査準備を行う。

- (2) 6月に神戸において開催される第63回学術集会・総会において、腎不全総合対策委員会企画のシンポジウムとして、「地域における末期腎不全医療を考える」を開催し、問題点と解決法をディスカッションする。アンケート解析結果およびこのシンポジウムの結果は、日本透析医学会誌において発表する。

- 2) 慢性腎臓病（CKD）対策に関して、関係学会との協力を推進する。

- (1) 日本腎臓学会、進行性腎障害に関する調査研究班、本学会統計調査委員会と協力し、有益なデータ解析が行えるように体制を強化する。特に、日本腎臓学会と日本透析医学会のレジストリーの連携を図る。小児についても、日本小児腎臓病学会を加えた上記機構で同様に進める。また、厚生労働省が支援しているCKD重症予防研究についても協力する。

- (2) 4月の診療報酬改定で、「腎代替療法の説明」に加算がされることが決まっており、これまで以上に患者

が末期腎不全治療の選択が適正に行えるよう、日本腎臓学会、日本移植学会と合同で発行している「末期腎不全治療選択」小冊子を改訂する可能性を検討する。

3) 腎移植の普及に努める。

- (1) 腎移植への理解を深めるため、日本移植学会、日本臨床腎移植学会など共同にて、日本透析医学会学術集会・総会、および関連学会・研究会などで臓器移植ネットワークの活動内容の紹介を含め、移植、特に献腎移植や生体腎移植の啓発活動を行う。
- (2) ドナー不足に対して、各種学会・研究会などにおいて、臓器提供カードの配布を推進し、臓器提供の増加をはかる。また、会員に、改定された「臓器の移植に関する法律」のガイドラインについて広報し、「旅行移植」が望ましいことでないこと、「病腎移植」はきちんとした倫理的手続きを取らない限り施行すべきでない等の問題についても積極的な啓発活動を行う。

4) 腹膜透析の普及に努める。

- (1) 日本透析医学会で作成された腹膜透析に関するガイドラインを基に教育セミナーなどを行う。日本腎臓学会にも働きかけ、腎臓専門医に対し啓発活動を行う。
- (2) PDの普及に向けて地域連携を推進するとともに、行政に対して積極的に働きかけ、ヘルパーがPDバッグ交換をできるようにするなど、高齢者などがPD医療を容易に受けることができるような体制を築く。

12. 危機管理委員会

1) 危機管理委員会

- (1) 透析医療における安全管理、災害と透析医療をテーマとした学術活動を行う。
- (2) 医療安全、災害対策に関して、日本透析医会、日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本臨床工学技士会等の関連団体と緊密に連携する。

2) 災害対策小委員会（山川智之小委員長）

- (1) 第63回学術集会・総会（6月29日～7月1日、神戸国際会議場ほか）において、災害に関する危機管理委員会企画を行う。テーマは「透析施設の現場における災害対策の課題」とし、以下の内容で行う。さらに、その内容を委員会報告としてまとめて透析会誌に掲載する。
 - ① 宮崎真理子 東北大学病院血液浄化療法部 透析患者に対する災害教育
 - ② 赤塚東司雄 赤塚クリニック 透析施設におけるハードウェア対策の実態と課題
 - ③ 山家敏彦 神奈川工科大学 災害支援と受援のマッチングの課題（JHAT活動の経験から）
 - ④ 鈴木一裕 援腎会すずきクリニック 施設における災害対策マニュアルのあり方（緊急離脱も含め）
 - ⑤ 相澤 裕 矢吹病院 患者とどのように情報共有するか
 - ⑥ 日機装株式会社 災害被災地に対する医療機器メーカーの立場でのBCP
- (2) リニューアルされた本学会のホームページ「一般の方へ」のメニュー「災害に対する備え」に大規模災害時等に学会として、患者向けのステートメントを掲載する。
- (3) 引き続き、統計調査委員会へ委員を派遣し、災害の透析患者の病態、生命予後に与える影響について解析するとともに、2011年末以来となる施設の災害対策に関する統計調査に関し、次回の実施時期や内容の検討に入る。
- (4) 発生が予想される南海トラフ地震、首都直下型地震への対応における問題点について検討し、対応策をたてる。
- (5) 日本透析医学会の理事、危機管理委員会、統計調査委員会、地域協力員は引き続き日本透析医会の災害対策メーリングリストに参加し、災害時の緊急情報の共有ならびに支援体制の構築にむけて関連団体と協力する。

3) 医療安全対策小委員会（安藤亮一小委員長）

- (1) 第 63 回学術集会・総会（6 月 29 日～7 月 1 日，神戸国際会議場ほか）において，医療安全に関する教育講演を推薦する。
- (2) 第 64 回学術集会・総会（6 月 28 日～6 月 30 日，パシフィコ横浜）において，医療安全に関する委員会企画ができるように，準備する。内容としては，医療安全の多職種によるパネルディスカッションや，事例検討（公開された事例や架空の事例），弁護士による講演や解決済みの判例を異なった弁護士に討論していただく企画やコミュニケーションと医療安全のテーマ等が推薦されている。
- (3) 医療事故調査報告制度に協力団体として，センター調査等を担当する。
- (4) 医療事故調査委員を各都道府県に配置し，必要に応じて委員の更新を行う。
- (5) 厚生労働省等から報告される，薬剤・医療器具などに関する緊急安全情報の中で，透析医療に関わるものについて，日本透析医学会ホームページを利用して会員に周知を図る。

13. 研究者の利益相反等検討委員会

「日本透析医学会における医学研究の利益相反（COI）に関する指針」に基づき，会員の利益相反状態に関する以下の事項について実施する。

- 1) 会員が総会等で発表する際の利益相反状態に関する情報開示
- 2) 会員が学会誌に投稿する際の利益相反状態に関する報告書の提出
- 3) 本学会の役員（理事長，理事，監事），総会会長，委員会委員長，特定の委員会ならびにその作業部会委員の利益相反状態に関する自己申告書の提出
- 4) その他，会員に関連した利益相反状態や自己申告内容に関する管理を必要に応じて行う。
- 5) 理事長の諮問により利益相反状態の問題の有無・程度の検討，審査請求に対する判断・マネジメント等を行う。

14. 男女共同参画推進委員会

男女共同参画推進委員会

日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会と共同し男女共同参画活動を進める。日本透析医学会ホームページの男女共同参画推進委員会の項の拡充を図る。多職種の男女共同参画に関する小委員会，女性医師育成小委員会の活動内容を掲載する。透析分野における男女共同参画の現況，展望についての寄稿，編集を進める。

小委員会の活動

- 1) 多職種の男女共同参画に関する小委員会
日本臨床工学技士会，日本腎臓病薬物療法学会，日本腎不全看護学会，日本病態栄養学会のそれぞれと共同働き方改革について各学会の現状と思索を検討する。
- 2) 女性医師育成小委員会
第 63 回学術集会・総会において，TSUBASA PROJECT を広く周知するため，展示場にブースを設ける，セッションの合間に TSUBASA PROJECT のイメージフィルム，広告フィルムを流す。
第 3 回 TSUBASA PROJECT を企画する。企画内容は以下に示す。
第 3 回 TSUBASA PROJECT
募集形式：4 人までを公募，日本透析医学会の女性正会員，年次募集
研究課題：透析患者の Gender について
参加者選択：女性医師育成小委員会委員
協力者：参加希望者は研究協力者（主に，参加者施設の指導医師）を指名し，研究協力者と共に課題研究

ができることとする。

課題進行：女性医師育成小委員会委員，参加者と協力者が行う。

概算要求：TSUBASA PROJECT 新規事業として，下記の科目で平成 30 年度概算要求する。

なお，この概算要求経費は個々に研究費として配分はしない。

概算要求経費の詳細：

通信運搬費：委員から参加者への通信費，アンケートの配付・回収

委託費：検査測定，翻訳・校正費，アンケートの解析

諸謝金：専門的知識の提供

支払負担金：研究成果発表費用